

発行：八戸市立市川中学校地域学校連携協議会

校長：馬渡教二 会長：小向龍悦

## 明治初期のすぐれた学校：「下市川小學」と「轟木小學」①

明治5年(1872)、日本初の近代的学校制度が公布された3年後の明治8年(1875)10月29日に下市川小學(後の多賀小学校)が「願叶庵」に仮設。翌明治9年(1876)5月5日に第7大学区第17中学区轟木小學が「清麓堂」(轟木上町内)に開校しました。その2年後の明治11年には文部省の役人が県下を視察し、下市川地区の轟木小學と下市川小學について次のように特記しています。

「巡視した部内でさらに記すべき小學が二校ある。一校は三戸郡の轟木小學で、この村は至っての貧しい村であるが、学齡の児童は一人も残らず就学し校舎もまた新築した。もう一校は同郡の下市川小學で、この小學には言葉をうまく話せない子どもが二人いるが、本を読ませても一つも読み間違うことがない。教員の尽力のたまものである。」(現代語訳)

八戸教育史(上)には、『明治11年の県下の就学率は全学齡児童に対して26%に過ぎなかったが、轟木小では100%であり、下市川小では障害児にまできめ細やかに教育をしているのを見て、かつて「当国ノ人民ハ概スルニ愚且猾」「牛馬ト同シク棲息」し、「異邦特域ノ人ニ相近キ」と書いた中央の役人も、わずか3年でこのように改善されたことに驚嘆したのだった』と記しています。



会津藩校：日新館正面



会津藩校：日新館全景

下市川小學の林忠蔵初代校長・轟木小學の藤澤茂助初代校長は、ともに会津藩の藩校である日新館で学び、また指導にあたり、会津戦争で薩長と戦って敗れた後は、斗南藩から下市川に来て子どもたちの教育に情熱を注ぎました。(以下、次号へ)

八戸市立市川中学校地域学校連携協議会教育コーディネーター：木村 隆一

参考資料：「八戸教育史(上)」 「聞き書き多賀の百年」 「とどろき百年」  
小川真 「轟木小學初代校長・藤澤茂助」 「会津藩 斗南へ」  
奈良孝次郎 「初代轟木小校長 藤澤茂助のはなし」 ほか